

## 第1回 斐伊川水系河川整備アドバイザー会議 議事録（概要版）

日 時：平成27年12月17日（木） 9:30～11:00

場 所：島根県民会館 303 会議室

### 1. 開会

- ・アドバイザー会議が開会され、事務局が議事進行を行った。

### 2. あいさつ

- ・国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所舩田所長があいさつを行った。

### 3. 設立趣旨(案)、規約(案)について

- ・事務局より、設立趣旨(案)、規約(案)について説明され、委員の了承を得た。
- ・事務局より、公開規定(案)、傍聴要領(案)について説明され、國井委員の指摘により、公開規定(案)、傍聴要領(案)に記載の「貴重種」は「希少種」へ変更することとなり、委員の了承を得た。
- ・委員の互選により、杓見委員が委員長に選出された。

### 4. 斐伊川水系河川整備計画【国管理区間】の進捗状況報告について

- ・事務局より、斐伊川水系河川整備計画【国管理区間】の進捗状況が報告された。

### 5. 質疑〈主な意見・質問〉

（大橋川関連）

- ・（委員）大橋川改修における環境保全措置は重要な問題であると認識しているが、ミティゲーション ※に対しての具体的な言及が少ないと思われる。これから考えるべき問題ということか。

→大橋川では、河川改修を行う場合、生物の移植に加え創出を行うことを目標としている。今後、様々な議論や専門家の助言を踏まえて創出の手法や場所等を決定していきたいと考えている。

- ・（委員）現在は概念的な内容となっているが、実際に工事を行う場合には、様々な問題が発生すると考えられ、具体的なミティゲーションの方法等の十分な検討を行って欲しい。

→施工により生物を消失することのないように、頂いた貴重な意見を参考にし、相談しながら事業を進めていきたいと考えている。

- ・（委員）これは多様な生物体を守っていく上で難しい問題であることに加え、環境変化は時間スケールの長い現象であることから、工程を遵守しつつ、モニタリングも含めて慎重に行う必要があると考える。

- ・(委員) 大橋川では(重要種などを)回避して整備を行うことが困難であり、移植による保全措置が基本となる。私もコアモ等の移植先について専門的な助言を行っているが場所の選定が難しいのが現状である。
  - ・(委員) 現在は平成 18 年洪水で浸水した区間の工事が進められており、今後は整備の困難な上流側に着手する必要があるが、現在の進捗状況を踏まえると整備が遅れているのではと感じており、その辺りの見通しを知りたい。
- 現在の進捗率は資料のとおり 10%程度であり若干遅れている部分もあるが、各地区において合意形成を図って整備を進捗させている。
- ・(委員) 大橋川の改修のうち、特に白濁地区においては、中世からの町並みや江戸時代の城下町などの歴史的な背景を活用した整備が行われることを望む。
- 行政だけでは景観的な検討は困難であることから、アドバイザー会議を開催し、有識者から景観に関する指導を頂いている。また、松江市の景観委員会からの意見や島根県から埋蔵文化財の調査等の協力を頂き事業を進めている。
- ・(委員) 生態系ネットワークの取り組み事例が資料にあるが、将来に向けてはこのようなネットワークを形成することが重要であり、ソフト的な意味合いから整備計画をバックアップできると考えている。

#### (中海・宍道湖湖岸堤)

- ・(委員) 湖岸堤の整備に関しては、早期に整備が必要な箇所は前倒しで実施することとされているが、安全・治水の面からは望ましいと考える。
  - ・(委員) 湖岸堤整備の進捗が遅れていると感じるが、いつ頃終了予定であるのか、完成までにどのようなリスクがあるのか、避難計画等について自治体とどのように協議されているのかを聞きたい。
- 現在多くの地域で大きな災害が発生する中、ハード整備だけで対応することは困難であり、ご指摘のとおり、避難を含めた総合的な対策が重要と認識している。資料にあるとおり、タイムライン(防災行動計画)の策定・運用を予定しているほか、想定最大外力に基づく浸水想定区域図を作成して、整備中や整備完了後の避難行動につなげることが重要であると考えている。各自治体との防災上のネットワークに関しては既に構築済みであり、水位等の避難に必要な情報を自治体と共有し、住民へ提供する体制は整えている。中海の堤防整備率は小さいが、整備計画目標に基づいて実施しており、15 年後には家屋浸水が発生しないことを目標としている。
- ・(委員) タイムライン策定はよいことであるが、策定が目的ではなく、適時変更を行って、地元、市、事務所が使いこなしていく必要がある。
  - ・(委員) 湖岸堤整備に関し、短期、短中期、中期と分類しているが、それぞれどの程度の目安か。
- 資料の工程表にあるとおり、中期整備までに 20 年間予定しており、それぞれの年数は概ね三分割である。

#### (浅場整備・環境整備)

- ・(委員) 浅場整備等の環境整備は漁業振興の観点からも重要と考えており、長年の実績や経験に基づく知見を踏まえて、さらなる工夫を加えて整備を行って欲しい。全体をやるという話も出ているが、まず覆砂や浅場造成をこれからも力を入れてやって欲しい。
  - ・(委員) 浅場に加えて湖全体で環境整備を行うと膨大なボリュームとなり、検討は必要であるが、実際の整備は困難と考える。
  - ・(委員) 水質改善においては目標が重要であり、目標を水質基準あるいは生物とするのかを十分に検討する必要がある。
- 環境整備においては、中海・宍道湖沿岸環境検討会等において、様々な意見を伺い進めており、加えて湖面全体についての検討も必要と考えている。
- ・(委員) 資料にある湖全体の「新たな対策」とはどのようなものか。
- 具体的な内容は定めてはいないが、沿岸部での実施内容を応用できるのかできないのかということを含めて、指導等を仰ぎながら沿岸のみでなく湖全体も含めて検討したいと考えている。
- ・(委員) 湖全体へ展開するのはよいが、その場合、現在の整備は沿岸から 20m 程度の範囲であり、これを延長して整備していく方向がよいと考える。
  - ・(委員) 貴重な意見であり、面としての環境整備を継続的に行うことが重要と考える。
  - ・(委員) 浅場整備においては整備後のモニタリング・フォローを行い、今後の整備へ活用すべきと考える。

#### (総合的な土砂管理)

- ・(委員) 総合的な土砂管理は非常に重要であり、河床低下は護岸等へ影響を及ぼし、河口部の堆積は流下能力へ影響するなどの問題が発生している。
- 欠席委員からも様々な意見を頂いているが、長期スパンのモニタリングが必要と考えており、例えば山地の状況等の広域なデータ把握を行うことを考えている。
- ・(委員) 鉄穴流しにより河床上昇し、その終焉により河床低下している等の河川の成り立ちの歴史を住民や若い世代に理解してもらい、地域住民等とともに問題に取り組んでいく必要がある。
  - ・(委員) 床止め下流は河床低下が著しいが、今後も河床低下が進行する、あるいは現在で安定しているという判定はできているのか。
- 低下の速度は不明であるが、現在の状況で将来的に安定するとは認識していない。
- ・(委員) 河川管理上、土砂管理は重要であり、いろいろな側面からの検討が必要であると考え。地域の方々と一体となった河川管理に連携して取り組むことは非常によいと考える。

#### (地域と一体となった河川整備、かわまちづくり)

- ・(委員) 斐伊川は江戸時代や明治初期には、流通経路としての役割があり、今度かわまちづくりで整備される木次周辺も流通の拠点になっていた地域である。このような歴史的な背景の情報表示やそれを踏まえた整備も必要と考える。
- ・(委員) 住民の目が行き届き、水に親しむような整備を行えば、整備方法も改善され、計画もブラッシュアップされると考える。

- ・(委員) 河川整備においては地域住民の関わりや地域連携が重要であり、この目線を忘れずに整備を行って欲しい。

## 6. その他

- ・(委員) 河道整備において土砂掘削等を行う場合、この土砂の引取先が近年減少傾向にあることから、中海の浚渫窪地の埋め戻しに土砂を活用することの検討を要望する。
- ・(委員) ダムにおいては、アオコに加えマンガンも問題となることから、抜本的な対策が必要となる前に、選択取水のゲート操作による排出等の弾力的な運用を行うことが望ましいと考える。
- ・(委員) 放水路が神戸川に合流する部分に流れのない水面がみられ、環境上特異な可能性があり、モニタリングポイントとして重要である。
- ・(委員) 大橋川改修においては、景観・水質保全・防災が重要となるが、地域の活性化の視点から、まちづくりと一体となった整備がこれからも行われることを要望する。
- ・(委員) 議事の中で述べたとおり、水を中心としたネットワークづくりが重要であり、これには地方創生や観光振興等も含まれ、このようなネットワークが連携して今後整備が行われることを委員会の要望としてとりまとめる。

## 7. 閉会

- ・事務局が連絡事項を報告し、アドバイザー会議が閉会された。

以 上

## ※ミティゲーション

開発事業による環境に対する影響を軽減するための全ての保全行為を表す概念。環境影響の回避、低減及び代償措置が含まれる。(環境影響評価情報支援ネットワーク 環境アセスメント用語集より)